

<白金標準、4500 円を固める時間帯・・・>



(出所：オアシス)

債務上限問題でバイデン大統領と共和党の合意の妥協点では歳出削減であり、歳出削減で景気減速のリスクが高まるとの見方がある。また中国では経済指標の低下に、新型コロナウイルスの新規感染者が6万人を超えるなど、感染拡大懸念も悪影響を見せている。特に中国の不動産セクターにおける懸念要因が、今週は非鉄金属の鉄鋼石や銅価格を押し下げるなど、白金標準先物も一時4500円を下回るとゴールデンウィーク中の安値4424円に迫る4462円まで下値を模索している。

しかし週末には、イエレン財務長官が米国のデフォルトになる6月1日にXデーを1300億ドルの支払い履行の目途が立ったことから6月5日に引き下げており、デフォルト・リスクが後退を示す中で、FRBが重要視するインフレ指標であるPCEデフレーターが前月比、前年比でも前月を上回るなど高いインフレを示しており、6月のFOMCでは利上げ観測が強まり、昨年11月23日以来の140.73円まで円安が進んでいる。そのため白金標準先物は4500円を回復するなど、需給バランスが供給不足を示すなどNY白金が1020ドルを下回る事が難しい状況下で円安の恩恵から4500円以下は下げ渋る展開が続くと思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDとシグナルが下げ続けており、RCIでも短期と長期が下げるなど、オシレーターでは下向きの域と捉えるのが妥当と思われる。今しばらく4500円を試す値動きに注意が必要と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引1,975,000円(2023年5月29日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約10倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復40,700円(2023年5月29日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話03-5540-8423(受付時間:平日8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>